

ちっぽけな人間だから 集まるとあたたかい

ふじのくにニッポンの縁側フォーラム

野沢和弘



◆直近助成年度：H27年度

◆助成額：2,268千円

◆事業名：「生活困窮の若者の就労・自立支援事業」

団体概要① ふじのくにニッポンの縁側フォーラム



静岡県

人口370万人

太平洋に面した温暖な海洋性気候

東海道新幹線の駅が6つ（熱海・三島・新富士・静岡・掛川・浜松）

お茶の生産は全国の4割を占める。駿河湾の桜エビ、生シラスなど。

健康寿命は平成22年は全国1位、25年は2位。静岡県は「お茶が理由」と言うが科学的根拠は確立されていない。

おだやか、のんびり。人口流出が多い。

駿河湾の桜エビを食べて回遊しないアジがいる。

団体概要② 中心メンバー

- ◆代 表 田坂成生 スクールソーシャルワーカー。長年、救護施設など福祉の現場で働いてきた。
- ◆副代表 小長井雅代 刑務所や学校のソーシャルワーカーとして働いてきた。
- ◆副代表 野澤和弘 毎日新聞の論説委員。熱海生まれ。
- ◆理 事 川口正義 生活困窮の子どもの支援を長年続ける。
- ◆理 事 坂間多加志 障害者支援や里親などを行っている。

ほかに静岡県内で暮らしたり働いたりしている人々があれこれと分担して事務局を担っている。

事業実施経緯①

当団体は平成26年7月から、静岡市内をはじめ静岡県内で活動する障害者・高齢者・児童の支援者、教職員など教育関係者、静岡刑務所など司法関係者、街おこしNPOなどが集まり、野澤和弘毎日新聞論説委員（静岡県出身）をスーパーバーザーとして勉強会を毎月実施してきた。

分野の違いや官民の壁を超えて地域社会で起きている現状について状況分析し意見交換を重ねてきた。

その中で、近年は生活困窮者自立支援事業、基幹型相談支援センター（障害）、地域生活定着支援センター（出所者）など、何らかの事情で生き難く生活困窮に陥っている人々の相談窓口や制度は整ってきたが、困窮状態の潜在化、自覚の欠如、制度の隙間に陥っている……などのため救済に結びつかない人々がたくさんいることを認識するようになった。

事業実施経緯②

背景には障害、貧困、触法、認知症、介護疲れ、DV、虐待・ネグレクト、いじめ、ひきこもり.....などの諸要因が複合的に絡み合っている場合が多く、各分野の専門知識や資源(サービス)を総動員しないと救済・自立にまでつなげることが難しい現状がある。

ただ、困窮者を救済・自立へつなげる端緒はさまざまな場面があり、家庭・学校・福祉・地域社会・司法が連携しネットワークをつくることによって、小さなシグナル(端緒)をすくい上げ、スムーズに救済へとつなげることができるのではないかという可能性を抱くようになった。

事業実施経緯③

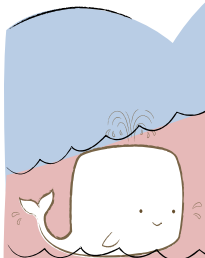
当団体中心メンバーは困窮家庭の学習・生活支援に長年取り組んできた人、非行少年や出所者の居場所の確保や就労支援を続けてきた人、ひきこもりや不登校の支援をしてきたスクールソーシャルワーカーらが複数おり、通常の活動の中で生活困窮の若者に多数関わってきている。

生活困窮の周辺にいる潜在層についても支援の必要性を痛感している。まだ公的な支援窓口につながっていない潜在的困窮者のニーズ把握は定量的調査ではなかなか難しく、現場に深く密着した通常の活動の中で浮かび上がってくることが多い。

学校、家庭、地域、福祉窓口などで断片的に得られる情報を統合してようやく一人の若者の困窮状態が把握できるケースも多い。ニーズ把握そのものが手探りかつ手作りで粘り強くやっていかなければならないところに、この問題の難しさがある。

助成事業実施内容①

2015年6月20日



- ① 静岡神輿連合会長 竹田 良治 さん
「神輿でコミュニティデザイン」地元を活性、人と人、人と社会、社会と文化をつなぐ神輿の役割とは
- ② つみきのそのさん 代表 園田 英史さん
「つみき」誰もが我を忘れて楽しってしまう魅力
- ③ 静岡市こども未来局 次長 高松利光さん 静岡市のこども・若者施策について

助成事業実施内容② 8月23日

- ・ ふじのくにニッポンの縁側フォーラム 田坂成生代表
- ・ 干物屋「十兵衛」繁盛記 NPO法人楽笑 小田泰久理事長



助成事業実施内容③ 9月6日

Panda法律事務所代表 浦崎寛泰弁護士
「司法と福祉の接点～弁護士として何ができるか」



市川重男元中学校長
「名前を覚えられなかったあなたに」

助成事業実施内容③ 10月10日

「コドモの素顔
先生のホンネ」
NPO法人子ども未来
杉山 裕之 理事長
(清水不二見小学校教頭)



「新たな貧困問題」
認定NPO法人 生活困窮・ホーム
レス自立支援 ガンバの会
副田 一朗 理事長

助成事業実施内容④ 10月25日

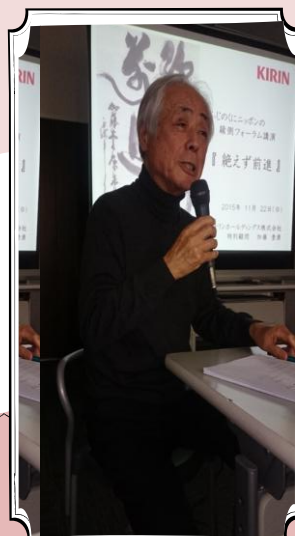
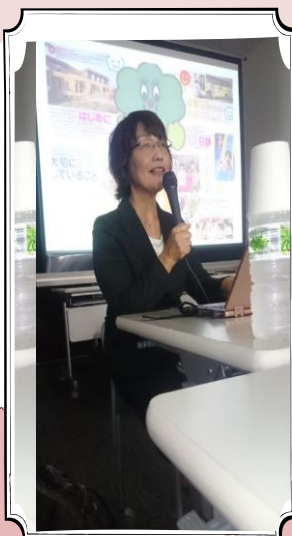
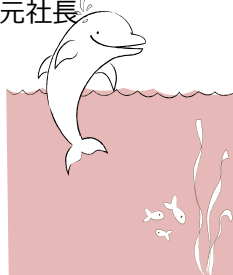
- ①「保健師咲ちゃんの『ここだけの話』」
沼津市役所保健師 芦川 咲
- ②「縁側にもリアルに迫れ、東大ゼミ」
東京大学自主ゼミ「障害者のリアルに迫るゼミ」



助成事業実施内容⑤

11月22日

- ①「みんなで子どもを育てる」
北川聡子 社会福祉法人
麦の子会総合施設長
- ②「ビジネスのこと
ふくしのこと」
加藤 壹康 (かずやす)
麒麟ホールディングス
元社長



助成事業実施内容 その他

- ◆ 12月26日(土)
「オーロラと心の宇宙」
 - ・田中泰義 毎日新聞静岡支局長
 - ・あさひ宗温 臨済宗東壽院住職
- ◆ 1月30日(土)
「地域で生きる、を支え続けて」
 - ・千葉県中核地域生活支援センター「ひなた」理事長 渋沢茂
- ◆ 2月21日(日)
「ひきこもり・非行・虐待からの『再生』」
 - ・国立大学法人福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室
榎屋 二郎 特任教授
- ◆ 3月26日(土)
「母子保健手帳について知る」 板東あけみ
「困窮家庭の高校生を支える」 NPO法人み・らいず 河内崇典代表

助成事業実施内容

報告集会

- ・ 2016年12月 サールナート・ホール(静岡市)にて、
2日間実施
- ・ 村木厚子前厚生労働事務次官の基調講演
- ・ 縁側対談
田辺静岡市長、斉藤熱海市長らをゲストに村木前次官がおもてなし役
- ・ 「北の国から 南の島から」
大原裕介・社会福祉法人ゆうゆう理事長、長野敏宏・御荘病院院長ら。

助成実施事業 冊子の作成



内でもあり、外でもある。日本家屋の＜縁側＞資格や理由がなくても、だれでもやって来ることができる。みんなで笑ったり、しゃべったり、なにか作業をしたり。

「日本地図を見ていると、ちょうど静岡って日本の縁側みたいなのところにありますよね」。雪がちらつくころ、東日本大震災の被災地で地元の人が言った。いつもポカポカしているみたいなイメージ？ そこで、ふじのくにニッポンの縁側フォーラムができた。

生活困窮の子ども、非行少年、ひとり親家庭、路上生活者などの支援をしている人々、学校の先生、児童精神科医、行政職員、矯正施設の職員、障害者や高齢者の支援者たち、お寺の住職、ジャーナリスト、弁護士……。いろんな人が＜縁側＞にやってきた。

事業が広がる

- 静岡県熱海市が2016年度に「縁側フォーラム in 熱海」を展開。市単独で200万円の予算措置をして、市役所職員や市内福祉事業所などの研修、外部講師を招いての事業所視察とワークショップ開催。2017年3月に熱海市内で2日間にわたって「熱海・縁側フォーラム」を開催する予定。
- 千葉県で堂本暁子前知事、池田徹・千葉県生活クラブ生協理事長らを中心に「ちば縁側の会」を結成して活動を始めている。村木厚子前厚労事務次官らも参加。

広がる理由①

コンセプトの魅力・わかりやすさ

比喻としての「縁側」。児童虐待、介護心中、孤独死.....現在の社会問題は家族や地域の人間関係の希薄化を背景に起きている。「孤立」「密室」「断絶」などとの対立概念として「縁側」はある。内でもあり、外でもある。だれもが理由がなくても集まり、日だまりの中でおしゃべりをしたりしてゆったりとすごす場所。なつかしい原風景。そうした人間関係や時間の流れなどの価値観の総体としての「縁側」の魅力やわかりやすさがある。

広がる理由②

情報発信の方法

メールやfacebookを使って「コクチーズ」で情報発信し参加者を募る(登録する)。

口コミ

県や社会福祉協議会などのルート

新聞に活動の紹介を掲載してもらう

魅力的なフライヤー

広がる理由③

面白いものに人は集まる

大切なもの・重要なものであっても真面目に語っているだけでは人は集まらない。これだけ情報があふれる世の中で、多忙な日々を送っている人に足を運ぼうと思わせるためには、おもしろくなくてはならない。おもしろいもの・おいしいものに人は集まる。

「懇親会ですべてが決まる」静岡は酒どころ

お茶摘み会と寺での座禅付勉強会

奥静の古民家での合宿

広がる理由④

非日常とサプライズ

名も無き任意団体なのに、縁側フォーラムには村木厚子・前厚労事務次官、田辺静岡市長、齋藤熱海市長らが登壇。ステージの上に「縁側」を設置し、村木さんがおもてなし役として「徹子の部屋」「さんまのまんま」のノリでゲストとやり取りする意外性。

フォーラム会場はお寺が経営するサールナート・ホール。懇親会は併設の法事用の部屋で。福祉・教育・司法・矯正だけでなく、加藤キリンビール元社長（静岡市在住）、あさひ宗温住職、田中泰義毎日新聞静岡支局長など、さまざまな分野からゲスト講師を呼び、社会問題を考えていく。

今後の展開

- 2016年は冊子「ちっぽけな人間だから集まるとあたたかい」を使って子どもたちにワークショップを実施
- ゲスト講師を招いての「縁側勉強会」を実施
- 「縁側」のコンセプトを地域や分野を超えて広めていく
- 活動拠点、事業化、人材育成などを検討

見えてきた課題

- 企画だけでは限界。事業や制度につなげないと継続・発展はできない。一方で、制度や組織にすると維持・持続が自己目的化し、本来の理念から遠くなる。
- 個々のメンバーが覚醒し発展・拡散していく一方で、縁側事務局が弱くなっていく。